

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25257105

研究課題名(和文) EUガバナンスと安全保障文化の相互補完性の比較研究

研究課題名(英文) the EU Governance and the comparative study on subsidiarity of the security culture

研究代表者

渡邊 啓貴 (WATANABE, HIROTAKA)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：80150100

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 26,100,000円

研究成果の概要(和文)：三年間の本研究計画によって安全保障文化におけるEU加盟各国の特徴や共通点・相違点を前研究計画の成果に基づいてさらに深めることに成功した。その結果は「安全保障・戦略文化の収斂と変容」という題名の書籍として発表する予定である。本研究計画参加者の大部分が執筆する。今までの成果をさらに発展させて、2016年秋には最終結果として国際政治学会研究大会で報告を行う。この分野における我が国では初の試みである。

研究成果の概要(英文)：We could successfully make clear the security and strategic cultures of EU member countries for three years. I will edit a book titled "Convergence and Transformation of Security and Strategic Cultures" in 2016. We are programming to finalize our project through organizing a symposium on this topic in Autumn of 2016.

研究分野：国際関係論

キーワード：安全保障 戦略 文化 EU 危機管理活動

1. 研究開始当初の背景

安全保障・戦略文化研究は国際政治学の領域では新しい分野であり、わが国ではまだ未開の研究分野である。本研究計画はそれまでの2回の科学研究費プロジェクト(3年計画、2回)などにおいて、会合を開いて方法論などについて議論してきた延長である。本格的に地域を基礎とするケーススタディが必要ということで参加者は一致した。

2. 研究の目的

本研究計画は 広義の安全保障分野の活動の基盤にある文化(価値規範や思考・行動様式)が同分野でのEUガバナンス(問題解決のための民主的・水平的合意形成)に与える影響プロセスとEUのガバナンスの成果としての慣習・制度がその機能を通して新たな共通文化を生み出すプロセスの間の相互作用・補完関係を解明することを目的とする。そうした双方向のアプローチは欧州統合のダイナミズムをより基盤的かつ動的に理解することを可能にすると考えられる。そしてそのダイナミズムはグローバル・ガバナンスやアメリカのガバナンスとの相互作用を分析し、比較研究することによってより客観的に理解できると考えられる。

すなわち、本研究テーマの大きな目的は「EUガバナンス」という比較的研究領域と、日本では未開拓の研究領域である「安全保障文化研究」の接点を追求することにある。

3. 研究の方法

(1)近年急速に発展しているEUのガバナンスとして、広義の安全保障文化(共通防衛・移民政策・人間の安全保障などを含む)での実態と背景となる文化的要因についての理解を深める。

(2)研究分担者が担当する国・国際機関でのガバナンスへの取り組み、国内(機構内)での争点(アクターの役割分担・コミットの程度・合意プロセス)を明らかにする。

(3)EUのガバナンス安全保障文化に対するEU各国と米国の見方についての考察を深める。

(4)国連や世界的規模でのガバナンスについての理解を深める。

(5)海外とのネットワークの擁立を図る。研究分担者はそれぞれの担当国・機関にとっての本研究との関連で重要と思われるテーマを絞り、基本となる研究枠組みの中で資料分析を進める。

(6)研究会合を定期的開催する。本研究は海外調査が中心であるが、日本人だけで研究活動を行うことによる意見の偏りを少しでもなくすために、海外研究協力者を招聘して研究会を行う。

4. 研究成果

(1)2013年度(1年目)

EUのガバナンスに関する認識を特に共通

安全保障・防衛政策や人間の安全保障分野において深めた。

研究分担者が担当する国と地域でのガバナンスの取り組みについて概要の把握に努めた。

とくにそのためのアクターやコミットの仕方については各国で違いがあるので、その点について確認した。

国連や世界規模でのガバナンスについてもEUとの比較的观点から考察した。

フランスで日仏知的交流を行い、ヨーロッパとの共同事業を実施することができた。

(2)2014年度(2年目)

EUのガバナンスの背景にある文化的要素についての発表会を2回行った。学内で文化外交のテーマに即した会合を実施した。

ウクライナ問題に関して研究者を集めてシンポジウムを開催した。

海外での学会に参加、発表を行い、研究分担者が参加する本を出版した。

(3)2015年度(3年目)

最終年度であるので、業績の整理とまとめの作業を行った。

広義の安全保障文化の基盤についての担当の国・地域における特徴を明らかにし、検討した。個別のテーマは国によって異なっていたが、それぞれの安全保障文化や価値規範や行動様式を議論した。その研究成果については、学会のシンポジウムで報告し、広く関連研究者に問いかけた。

成果としては、もちろんそれぞれの国・地域の特徴があるが、テーマを超えて規範の背景となる価値が収斂していく傾向が見られる事、また、ドイツの防衛安全保障観が変化していった例にみられるように固有なものと考えられがちな安全保障文化そのものが変容するという点について意見が一致した。

それは、また、この分野での思考様式や行動様式の一元化というプロセスを通して、EU全体のガバナンス形成に大いに寄与することになる。ここでは、法制度を超えた双方向的で水平的な合意形成として、ガバナンスを理解する。そのプロセスや結果はアメリカとは異なった形でEUの場合は示されている。研究分担者各自はそれぞれの地域・分野において、こうした視点での研究を深めることができ、同時にそのリサーチプロセスを通して、各国の専門家との間に関係を深め、ネットワークを構築することに成功した。現在、今秋の出版を目指して、共著作(仮題:安全保障文化の比較研究:芦書房)の準備を進めている。今後は、この安全保障文化が、外交や外交当事者にどのように影響を持つかという点とそれぞれの地域や国によって異なった現象として現れるプロセスについて、考察を深め、モデルを検証できるようにしたいと思う。最後にこうした諸地域との比較検討をする中で、日本外交・安全保障文化について、検証できればと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 32 件)

渡邊啓貴、EU 統合とフランス、現代史研究、査読無、第 12 巻、2016、67 - 81

渡邊啓貴、欧州統合 深化の逆説、外交、査読無、1 月号、2016、100-105

渡邊啓貴、Japan-Europe Relations at the Multilateral Level 平和国家日本の戦後 70 年、査読無、2 月号、2016、電子版

佐々木卓也、書評 三牧聖子著『戦争違法化の時代 「危機の 20 年」のアメリカの国際関係思想、アメリカ太平洋研究、査読無、16 巻、2016 年、135-139

Koji Fukuda and Yasue Fukuda, Pension Policy Regime and the Open Method of Coordination in the European Union、『阪南論集』社会科学編、第 51 巻第 3 号、2016 年、61-74

渡邊啓貴、ポスト冷戦の秩序再編に揺れるヨーロッパ、海外事情、査読無、12 月号、2015、2-19

渡邊啓貴、西欧の没落を社会統合の失敗、VOICE、査読無、3 月号、2015、106-113

坂井一成、EU の地中海政策におけるフランスの関与と課題 - 移民問題のセキュリティイゼ - ション、国際政治、査読有、182、2015、58-70

松隈潤、国際社会における武力行使禁止の原則の変貌(三・完)、国際関係論叢、査読有、4 巻 2 号、2015 年、73-102

佐々木卓也、ジョージ・ケナンと二〇世紀アメリカ」ジョージ・ケナン『二十世紀を生きて ある個人と政治の哲学』関元訳、中公クラシックス、査読無、7 月号、2015 年、1-19

森井裕一、序論転換期のヨーロッパ、国際政治、査読無、182 号、2015、1 - 15

森井裕一、EU の展開とドイツの役割、国際問題、査読無、641、2015、39-48

森井裕一、反ヨーロッパ意識の政治的意味 - ドイツを中心として、ドイツ研究、査読有、49、2015、19-32

Kumiko Haba、The Power Shift: National Anxiety, Territorial Dispute, and Trans-Regional Cooperation in Asia and the US Role、International Relations and Diplomacy、査読有、Vol. 3, No. 3、2015 年、1-11

渡邊啓貴、ヨーロッパはオバマ政権をどうみているのか、国際問題、査読無、4 月号、2014 年、35-47

渡邊啓貴、日本の主張をいかに海外に伝えるか - 広報合戦から文化戦争の時代へ、中央公論、査読無、4 月号、2014 年、208-215

渡邊啓貴、ウクライナにみる危うい外交ゲーム、VOICE、査読無、5 月号、2014 年、70-80

渡邊啓貴、米欧同盟とウクライナ、ユーラ

シア研究、査読無、11 月号、2014 年、43-47

渡邊啓貴、「安全保障共同体」としての米欧同盟の揺らぎ - 冷戦後の米欧関係の盛衰、海外事情、査読無、12 月号、2014 年、40-58

渡邊啓貴、Considerring the Asian Community、One Asia Convention Proceeding、査読無、August、査読無、2014、225-234

②森井裕一、ウクライナ危機とドイツの対応、ユーラシア研究、査読有、51 巻、2014 年、48-52

②森井裕一、ドイツにおける国内拘束の強まりと欧州統合 - 国内構造の変化と対外政策、ヨーロッパ研究、査読無、13 巻、2014 年、5-14

③松隈潤、「人間の安全保障」の主流化 ~ 国際法の視点、東京外国語大学論集、査読有、89 巻、2014 年、131-151

④佐々木卓也、新刊紹介(菅英輝編著「冷戦終焉の視点から」松籟社)、アメリカ学会会報、186 号、2014 年、8-8

⑤羽場久美子、拡大 EU の境界線とナショナリズム、民主化 多様性の中の統合、学術の動向、査読有、8 月号、2014 年、64-69

⑥羽場久美子、パワーシフトとゼノフォビア(外国人嫌い)、学術の動向、査読有、1 月号、2014 年、26-35

⑦森井裕一、ドイツにおける国内拘束の始まりと欧州連合 国内構造の変化と対外政策、ヨーロッパ研究、査読無、13 巻、2014 年、5-14

⑧渡邊啓貴、例外となるか、フランスのマリ介入、三田評論、査読無、1177 巻、2013、26-32

⑨渡邊啓貴、フランスにおける欧州統合の国内化と EU アイデンティティ --- リスボン条約成立に向けたフランスの貢献とその背景、国際関係論叢、査読無、2 巻 2 号、2013、95-100

⑩渡邊啓貴、支持率低迷仏オランド政権 マリ情勢泥沼化の回避に腐心、エコノミスト、査読無、6 月 18 日号、2013、38-40

⑪松隈潤、(研究のノート)普遍的義務の履行確保、東京外国語大学論集、査読有、87 巻、2013 年、235-247

⑫羽場久美子、大国のパワーシフトとアジアの地域統合、神奈川大学評論、査読無、75 巻、2013 年、22-33

[学会発表](計 37 件)

Hirota WATANABE、The path ahead for Japanese diplomacy: need for consciousness of being a global player、CISH's XXIIInd CONGRESS XXIIème Congrès du CISH JINAN、2015 年 8 月 28 日、中国済南

渡邊啓貴、安全保障文化のアプローチの論点、日本公益学会、2015 年 9 月 26 日、筑波大学

森井裕一、国際環境とドイツの安全保障文化、日本公益学会、2015 年 9 月 26 日、筑波大学

福田耕治、「EUの安全保障」、千葉市民文化大学、2015年7月24日・2015年7月31日、千葉市民会館

松隈潤、国際連合の70年「平和と安全の維持」を中心として、国際法学会、2015年9月19日、名古屋国際会議場

佐々木卓也、アメリカの戦略文化と冷戦期安全保障政策、日本公益学会、2015年9月26日、筑波大学

佐々木卓也、パワー・バランスの変化とアメリカの東アジア政策 歴史的考察、日韓国交正常化50周年記念学術大会、2015年6月18日、済州・韓国

SAKAI Kazunari、Politics of Migration of the European Union: Political and Cultural Perspectives、International Workshop « Mobility, Migration, and Its Discontents: Rethinking Political and Cultural Borders in Europe and Japan », 2015年9月18日、University of Naples “ Orientale ”

羽場久美子、グローバル化の下での移民流入とゼノフォビア、日本公益学会、2015年9月26日、筑波大学

渡邊啓貴、「ウクライナ問題」に関する欧米の対ロシア動向と展望、国際情勢研究所報告、2014年11月4日、国際情勢研究所

渡邊啓貴、ウクライナ問題をどのように考えるか、言論NPO座談会、2014年6月6日、USTREAM録画放送

渡邊啓貴、EUの安全保障政策、EU講座リレー講義、2014年7月15日、明治大学

渡邊啓貴、ドゴール外交、国際関係史学会、2014年3月1日、東京外国語大学本郷サテライト

渡邊啓貴、ドゴールと現代フランス、関西政治史研究会 2014年3月8日、京都大学

森井裕一、ドイツにおける国内拘束の始まりと欧州連合への責務、比較政治学会、2014年6月24日、神戸大学

森井裕一、反ヨーロッパ意識の政治的意味 ドイツを中心として、ドイツ学会、2014年6月4日、武蔵大学

福田耕治、成長・雇用・社会保障のグローバル・ガバナンス 格差問題から連帯と社会的包摂へ、グローバル・ガバナンス学会・日本公益学会と共催の「共通論題」、2014年10月4日、専修大学

Koji Fukuda、Growth, Employment and Social Security Governance in the EU and Japan、The Political Economy of Social Coalitions and Policy Regime Change 5th International Symposium、2014年11月28日、イタリア・フローレンス

松隈潤、「人間の安全保障」の主流化～グローバル・ガバナンスの視点から、国連大学グローバル・セミナー湘南セッション、2014年9月3日、湘南国際村センター

松隈潤、グローバル・ガバナンスと「人間の安全保障文化」、科学研究費補助金基盤

研究(A)(25257105)研究会、2014年6月16日、東京外国語大学本郷サテライト

②松隈潤、国際人権法の課題～拷問等禁止条約と日本、刑事司法に関する国際フォーラム研究会、2014年1月31日、最高検察庁

②松隈潤、グローバル・ガバナンスと人間の安全保障、2014年度新入生歓迎シンポジウム「現代世界の収斂と拡散ーウクライナから靖国まで」、2014年6月12日、東京外国語大学

③佐々木卓也、アイゼンハワー政権の封じ込め政策と東西交流 1955 - 60年、ロシア史研究会、2014年10月18日、日本大学

④坂井一成、現代フランスの文化外交 「影響力のある外交」の模索、日本国際政治学会、2014年11月14日、福岡国際会議場

⑤Kazunari SAKAI、Enlargement of the EU and Struggle to Coexist with Cultural Others、Kobe University International Workshop in Brussels、2014年、3月4日、Brussels

⑥Kumiko Haba、Power Shift, National Anxiety, & Territorial Dispute --Confidence Building under the American Rebalance Strategy、IPSA、2014年7月20日、Montreal, Canada

⑦Kumiko Haba、Democracy and Nationalism in the Orban Government、ASEEES、2014年11月19日、San Antonio, USA

⑧Kumiko Haba、Making Asian Think-tank Networks & the Common Asian Universities: Future for Youth Regional Integration in the Indo-Pacific: Prospects and Challenges、One Asia Conference、2014年8月2日、Jeju, Korea

⑨Kumiko Haba、Security, Sovereignty and Confidence building in the Indo-Pacific: A Perspective from Japan、Observer Research Foundation、2014年11月24 - 25日、Deli, India

⑩Kumiko Haba、Hungarian Democracy and Nationalism transformation after the Cold War and Globalization、AHEA、2014年5月21 - 23日、Florida University, USA

⑪渡邊啓貴、フランス社会党政権の政策、政研フォーラム 2013年8月26日、友愛会館

⑫坂井一成、EUの地中海政策におけるフランス外交の関与と課題-移民問題のセキュリティゼーションをめぐって、日本国際政治学会、2013年10月25日、朱鷺メッセ

⑬Kumiko Haba、Hungarian Uprising in 1956 and Hungarian reform since 1989、ASEEES、2013年11月21-24日、Boston, USA

⑭羽場久美子、ユーロ危機とナショナリズムーグローバルイズム、リージョナリズムへの対抗、日本EU学会、2013年11月9日、立命館大学

③⑤羽場久美子、境界線をめぐる西と東のゼノフォビア 開放・包摂と排除の論理、ロシア東欧学会、2013年10月5日、津田塾大学

③⑥ Kumiko Haba、Power Shift and National Anxiety, Territorial Dispute and Asian Regional Integration under the Global Era, ICCEES、2013年、8月6日、幕張

③⑦ Kumiko Haba、Asian Regional Integration and the Major Powers、ASPAC、2013年6月9日、Monterey, USA

〔図書〕(計20件)

福田耕治、成文堂、福田耕治編「EUの連携とリスクガバナンス」、2016年、280

Koji Fukuda、Routledge、London、Hideko Magara, ed., Policy Change in New Democratic Capitalism、2016、未定

羽場久美子、中央公論新書、ヨーロッパの分断と統合、2016年、390

渡邊啓貴、岩波書店、現代フランス、2015年、275

渡邊啓貴、福田耕治、(小久保康之編)、春風社、EU統合を読む、2015年、280

Koji Fukuda (Paul Bacon, Hartmut Mayer (et.al.eds.)), Ashgate、The European Union and Japan: New Chapter in Civilian Power Cooperation?、2015年、276

羽場久美子、中央公論新社、拡大EUの統合と分裂ー境界線をめぐるナショナリズム: 包摂か、排除か、2015、350

渡邊啓貴(大芝亮編)、ミネルヴァ書房、ヨーロッパが作る国際秩序(「多極構造の世界におけるヨーロッパ」)、2014年、236

渡邊啓貴編、芦書房、世界から見たアジア共同体、2014年、295

佐々木卓也(宮城大蔵編)、中央公論社、戦後アジアの形成と日本、2014年、302

福田耕治(辰巳浅嗣編)、創元社、EU・欧州統合の現在・第3版、2014、284

Koji Fukuda(Hideko Magara, Ed.) Edward Elgar、Economic Crises 1 and Policy Regimes、2014、428

羽場久美子、中央公論新社、拡大ヨーロッパの挑戦 グローバルパワーとしてのEU増補版、2014年、278

羽場久美子(三成美保・姫岡とし子・小浜正子編)、大月書店、歴史を読み替える ジェンダーから見た世界史、2014年、314

渡邊啓貴、大修館書店、フランス文化外交戦略から学ぶ、2013年、255

渡邊啓貴、慶應義塾大学出版会、シャルル・ドゴール、2013年、382

渡邊啓貴(国分良成編)、岩波書店、日本の外交 第4巻、2013年、320(201 218)

渡邊啓貴他(羽場久美子編)、明石書店、EU(欧州連合)を知るための63章、2013、400

武内和彦・松隈潤(共編著)、国際書院、人間の安全保障: 新たな展開を目指して、2013、131

松隈潤(内田孟男編)、ミネルヴァ書房、国際機構論、2013年、315

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 啓貴(WATANABE Hirotaka)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号: 80150100

(2) 研究分担者

森井 裕一(MORII Yuichi)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号: 00284935

福田 耕治(FUKUDA Koji)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号: 20165286

松隈 潤(MATSUKUMA Jun)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号: 50248465

佐々木 卓也(SASAKI Takuya)

立教大学・法学部・教授

研究者番号: 60202090

坂井 一成(SAKAI Kazunari)

神戸大学・国際文化研究科・教授

研究者番号: 60313350

羽場 久美子(HABA Kumiko)

青山学院大学・国際政治経済学部・教授

研究者番号：70147007

(3)連携研究者

()

研究者番号：